



2025年8月4日

各位

会社名 クリヤマホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役CEO 小貫成彦
(コード番号 3355 東証スタンダード)
問合せ先 取締役執行役員 元木雄三
(TEL 06-6910-7013)

2025年12月期第2四半期（中間期）連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は最近の業績動向を踏まえ、2025年2月14日に公表いたしました第2四半期（中間期）連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

(1) 2025年12月期第2四半期（中間期）連結業績予想数値（2025年1月1日～2025年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	44,000	1,800	2,100	1,700	86.51
今回修正予想（B）	43,284	2,595	2,937	2,636	134.21
増減額（B－A）	▲716	795	837	936	
増減率（％）	▲1.6	44.2	39.9	55.1	
（ご参考）前期第2四半期実績 （2024年12月期第2四半期）	40,326	2,780	3,106	2,109	107.64

(2) 修正の理由

2025年12月期第2四半期連結業績予想につきましては、産業資材事業においては、主要顧客である農機・建機をはじめとした産業用機械メーカーの生産活動が想定よりも上回りました。スポーツ・建設資材事業においては、文教施設や公共の体育館の大型の改修物件、鉄道施設の安全対策強化に伴う大型の改良・改修工事案件が想定より少なかったものの、相応に採算を確保しました。北米事業においては、関税の影響により販売代理店が在庫保有に慎重となる傾向が見られましたが、損益への影響は限定的なものとなりました。欧州・南米・オセアニア事業においては、総じて想定範囲内で推移しました。

この結果、前回発表の予想に比べて、売上高は下回りましたが、営業利益、経常利益は上回りました。また、株式会社ミトヨのグループ化に伴う負ののれん発生益を計上したことから、親会社株主に帰属する中間純利益は大幅に上回りました。

尚、2025年12月期の通期業績予想につきましては、米国政府の関税政策が経済に及ぼす影響や地政学リスク等、依然として先行き不透明な状況が続いていることから、変更しておりません。

今後、重大な影響が見込まれると判断した場合には、速やかにお知らせいたします。

以上